4/14 朝日

福島事故12年 ドイツ全原発停止へ

オランダ国境に近いドイツ北西部ニーダーザクセン州の都市リンゲン。商店街のある中心部から車で数分走ると、雑木林の向こうに約150㍍の冷却塔から立ち上る白い水蒸気が目に入った。ドイツで稼働中の最後の原発3基の一つ、エムスラント原子力発電所だ。

「このために何十年も闘ってきた」。リンゲンの反原発団体幹部のアレクサンダー・フェントさん(53)は感慨深げだ。3基とも15日に停止し、2011年3月の東京電力福島第一原発事故を受けて進めてきたドイツの「脱原発」が完了する。

ドイツ政府は、11年6月に国内17基の原発を段階的に閉鎖する方針を決め、風力発電などの再生可能エネルギーを増やした。電源構成に占める割合は11年の20%から、昨年は2倍超の44%に。一方、原子力は18%から3分の1の6%になった。

ただ、ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー不足の不安などから、脱原発への国民の受け止めも変わりつつある。独DPA通信などが3月30日～4月4日に実施した世論調査によると、原発停止の支持は26%にとどまり、一定期間または無期限での稼働延長への支持が65%に上った。

原発の稼働延長をすれば、電力需給が逼迫せずに料金も抑えられるとの見方から、原発のあるリンゲンでも「原発は動かすべきだ」との声が上がる。

リンゲンのディーター・クローネ市長(59)は「準備期間は十分にあり備えてきた。原発から新しいエネルギーへの移行は前向きな挑戦だ」と話す。（リンゲン＝寺西和男）

▼3面＝試練のドイツ